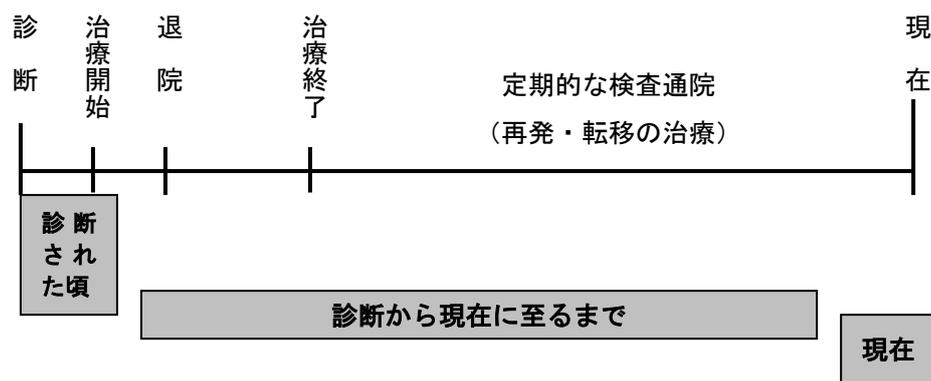


## 4 悩みや負担の全体傾向

「がんの診断、治療を受けて悩んだこと」という設問に関しては、「診断された頃」、「診断から現在に至るまで」、「現在」の三時点に分けて、自由記載による回答を求めた。

図 4-1 三時点の捉え方

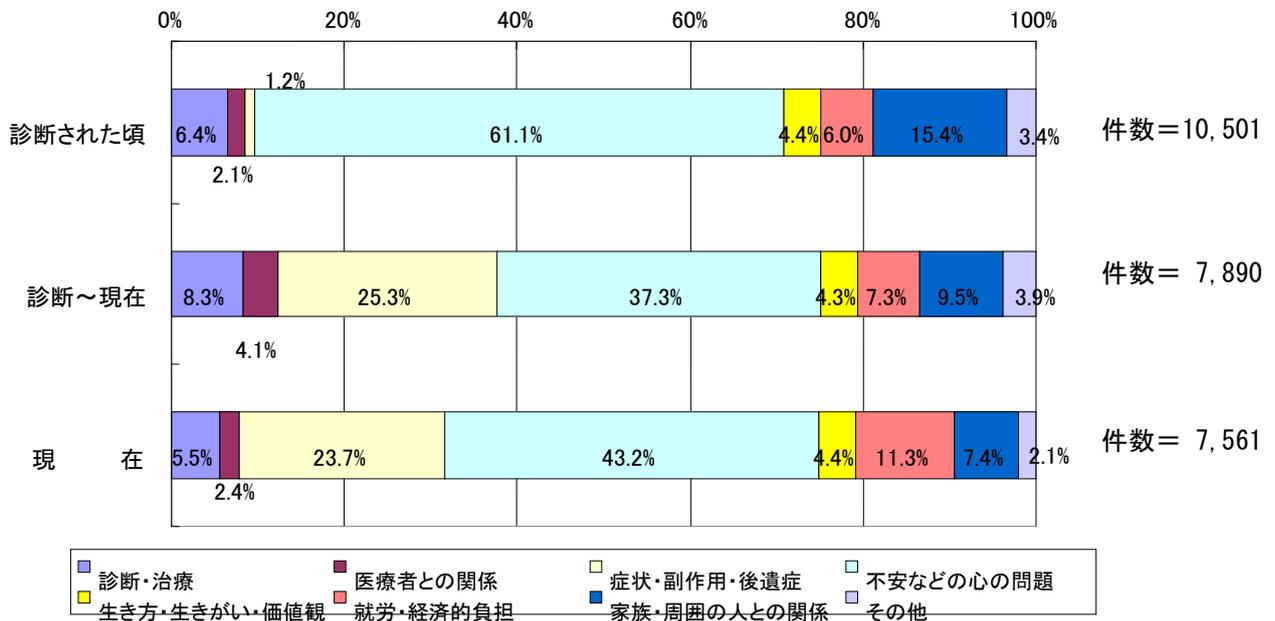


「診断された頃」では、ほとんど情報がない中、告知を受け、混乱した状況下での悩みを想定した。「診断から現在に至るまで」では、診断、治療、経過観察の過程、さらには再発・転移の治療を振り返っての悩みを想定した。「現在」では、さまざまな経過を経て、現在、体験している悩みを想定した。

表 4-1 三時点における悩みや負担の件数と割合

| 大分類          | 診断された頃 |        | 診断から現在 |        | 現在    |        | 三時点計   |        |
|--------------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
|              | (件数)   | (割合)   | (件数)   | (割合)   | (件数)  | (割合)   | (件数)   | (割合)   |
| 外来           | 82     | 0.8%   | 22     | 0.3%   | 17    | 0.2%   | 121    | 0.5%   |
| 入院・退院・転院     | 85     | 0.8%   | 93     | 1.2%   | 17    | 0.2%   | 195    | 0.8%   |
| 診断・治療        | 669    | 6.4%   | 655    | 8.3%   | 414   | 5.5%   | 1,738  | 6.7%   |
| 緩和ケア         | 76     | 0.7%   | 29     | 0.4%   | 53    | 0.7%   | 158    | 0.6%   |
| 告知・IC・SO     | 110    | 1.0%   | 131    | 1.7%   | 50    | 0.7%   | 291    | 1.1%   |
| 医療連携         | 0      | -      | 1      | 0.0%   | 1     | 0.0%   | 2      | 0.0%   |
| 在宅療養         | 1      | 0.0%   | 0      | -      | 2     | 0.0%   | 3      | 0.0%   |
| 施設設備・アクセス    | 5      | 0.0%   | 24     | 0.3%   | 23    | 0.3%   | 52     | 0.2%   |
| 医療者との関係 (自院) | 128    | 1.2%   | 280    | 3.5%   | 172   | 2.3%   | 580    | 2.2%   |
| 医療者との関係 (他院) | 96     | 0.9%   | 49     | 0.6%   | 11    | 0.1%   | 156    | 0.6%   |
| 症状・副作用・後遺症   | 125    | 1.2%   | 2,000  | 25.3%  | 1,790 | 23.7%  | 3,915  | 15.1%  |
| 不安などの心の問題    | 6,417  | 61.1%  | 2,940  | 37.3%  | 3,267 | 43.2%  | 12,624 | 48.6%  |
| 生き方・生きがい・価値観 | 465    | 4.4%   | 343    | 4.3%   | 332   | 4.4%   | 1,140  | 4.4%   |
| 就労・経済的負担     | 625    | 6.0%   | 575    | 7.3%   | 855   | 11.3%  | 2,055  | 7.9%   |
| 家族・周囲の人との関係  | 1,617  | 15.4%  | 748    | 9.5%   | 557   | 7.4%   | 2,922  | 11.3%  |
| 合計           | 10,501 | 100.0% | 7,890  | 100.0% | 7,561 | 100.0% | 25,952 | 100.0% |

図 4-2 三時点における悩みや負担の件数の割合



それぞれの時点について得られたデータを、大分類別に表 4-1、図 4-2 に示した。

三つの時点での、最も顕著な差は、「診断された頃」で、61.1%を占めていた大分類「不安などの心の問題」と分類された悩みが、「診断から現在に至るまで」、「現在」では、それぞれ 37.3%、43.2%と減少している点である。一方、「診断された頃」で、1.2%を占めるにすぎなかった大分類「症状・副作用・後遺症」と分類された悩みは、「診断から現在に至るまで」、「現在」では、それぞれ 25.3%、23.7%と顕著に増加している。このように、時期によって、患者の悩みは大きく変化することがあり、本調査はそれを十分に反映しているものと思われる。

「診断された頃」の悩みに関するデータ 10,501 件、「診断から現在に至るまで」の悩みに関するデータ 7,890 件、「現在」における悩みに関するデータ 7,561 件を合わせた 25,952 件のデータが、「がんの悩みデータベース」の基本となるが、データベースの構造上は、一件一件のデータが、補遺 1 に示した分類のいずれかに割り付けられる。

補遺 3 には、データの例として二万数千件のうち 467 件を、小分類別に表してある。これらのデータは、2 章で示した、がん診断の時期、がんの種類、再発・転移の有無などの、さまざまな背景因子のデータにより分類し、解析することが可能である。そのいくつかの例については、後に述べる。